

たまのよこやま

カラムシの夏
糸作りにチャレンジ



カラムシから糸作り

7月27日・28日の両日、緊急企画として「カラムシから糸作り」教室を開催しました。この教室はこれまでに行ってきた古代の布作り「^{あんぎん}編布教室」の参加者から、実際に糸から作ってみたいという要望にお応えする企画として急きょ設定したものです。カラムシは縄文人が縄の素材としていた大切な植物の一つ。ここから縄文人の技術を少しでも学ぼうというのが今回の企画の趣旨。

とはいえ、普段土器や石器ばかりを相手にしている調査員にとって、そう簡単に糸が作れるものではありません。そこで、糸作りの本家ともいえる福島県大沼郡昭和村の「からむし織の里」で開催された「からむしフェア」に自費で参加。ここでは年間を通してカラムシの栽培から糸作り、そして機織までを織姫たちが行っています。このフェアで何とか付け焼刃の糸作りをマスターして、ようやく教室開催の運びとなりました。教室では、緊急企画にもかかわらず、両日で68名もの参加をいただきました。

まずはじめは、カラムシの刈り取りから。カラムシは7月後半から8月上旬に刈り取ったものが品質の上でベストといわれていましたので、今回の教室もそれにあわせて7月末に設定しましたが、それはあくまでも福島県昭和村でのお話。実は東京の多摩ではもうこの時期、茎が茶色に変色して皮が硬くなり始めていました。どうやらこの地域の刈り取



みんなでカラムシの刈り取り

り時期は一月ほど前の6月下旬から7月上旬であったようです。しかし、いまさら教室を中止することもできませんので、多少硬くなってしまったのは我慢して強行突破。みんなで一齐に遺跡庭園の草刈り。

朝に刈ったカラムシは、水槽に浸して水分を含ませ、その日のうちに処理します。

次に茎の1/3あたりでポッキリと折って、上下二枚の皮を浮き上がらせ、茎と皮の間に人差し指を挟みこんで表面の皮をスーと剥いていきます。ここで2枚の幅広な皮が取れば成功。あとはお引き具とお引き板を使って、皮からさらに余分な緑色の部分をそぎ落としていきます（この工程を「^{おひ}引き」といっています）。実はこの工程が一番大変ですが、ちょっとしたコツをつかめば、面白いように皮がは



昭和村「からむしフェア」の一コマ



にわか作りの講師の話を真剣に



老いも若きもみんな「苧引き」

がれ、結構はまってしまいう作業でもあります。

皮を剥がして残った茎は苧殻とよばれ、かつては束ねて^{たいまつ}松明の素材としたり、屋根の材料などにも用いられていたようです。また、残った繊維のかす(苧屑)は壁土や漆喰の材料に、さらにはたたいてやわらくして内綿として利用したりと、まさにエコの教科書みたいな素材です。

きれいな繊維が取れたら、今度はさらにその皮を細く裂いて、撚りをかけながら、糸を作っていきます。撚りをかけるなどという作業は普段ほとんど行いませんので、参加者はみな四苦八苦。糸を撚らずに、手がよじれてしまうこともしばしばでしたが、縄文人にとって^{なわよ}縄撚りは基本中の基本で、縄撚りが

できなければ「お嫁に行けない」どころではないはず。縄文人に笑われながらも何とかそれぞれ1メートルほどの長さの糸を3本ずつ撚り上げました。

今回はさらにその作った糸で、手作りストラップを完成させてお持ち帰りいただくところまでを計画しました。実際にマイ・ストラップまで完成できた方は、約半分ほどではありましたが、今回の企画をとおして糸作りの大変さと面白さを少しでも感じていただけたのではないかと思います。縄文人の域に達するにはまだまだ相当努力が必要なようですが・・・。

(小葉)



茎をZ状に折り、皮を2枚にする。



皮と茎の間に指を挟み、皮を引っぱりながら剥ぎ取っていきます。



剥ぎ取った皮の裏側に苧引き具を当てて、表の皮を剥ぎ取ります。この細かいテクニックは企業秘密。



さらに残った余分な皮を、苧引き板の上でそぎ落とします。



撚りあげたからむしの糸。オリンピック誘致マークのように結んでみました。



ねじり結びのストラップにして完成。

そめいせいせき
豊島区染井遺跡

所在地：豊島区巣鴨3丁目～5丁目

調査期間：2008年7月～2009年6月

調査面積：4,085㎡

染井遺跡は、東京都中央卸売市場豊島市場周辺からJR駒込駅北側に広がる、伊勢国津藩藤堂家(32万3千9百石)の屋敷跡を中心とした、約50万㎡にも及ぶ広大な遺跡です。今回の発掘調査は、放射第9号線(白山通り)の拡幅事業に伴うもので、調査地点は遺跡の西端に位置します。近隣には中山道(現在の地藏通り)や、江戸六地藏の一つ(4番目)が置かれている真性寺、また「とげぬき地藏」で有名な高岩寺(明治24(1891)年に現在地に移転)があります。

調査地点は当初、藤堂家抱屋敷の一部でしたが、明和6(1769)年には代官伊奈半左衛門預かりの幕府御用林、寛政10(1798)年からは幕府御抱医師の渋江長伯が管理する「巣鴨菜園(御菜園)」が置かれた場所に当たります。巣鴨菜園は1万2千坪(約4万㎡)の広さがあったといわれ、また渋江長伯が文化14(1817)年に、日本初の綿羊飼育をしたことから、別名「綿羊屋敷」とも呼ばれました。さらに、調査地点南東部の埋没谷は、幕末の絵図にも描かれた「長池」(現在の染井霊園内)に流れ込んでいた流路であったと思われます。



旧石器時代の礫群



縄文時代の陥し穴状土坑



藤堂家屋敷内の掘跡



巣鴨菜園(御菜園)の境堀跡

調査の主体は明治以降のもので、建物基礎・礎石・井戸・土管・レンガ拵・地下室・埋甕・胞衣皿・ごみ穴・瓦溜・土坑・ピット(小さな穴)などが、合わせて1,400基以上見つかりました。これらは主軸方向の違いなどから、昭和6(1931)年の白山通り開通以前と以後のものがあるようです。また建物基礎・礎石・土管の配置などから、建物の位置や変遷が復原できると期待されます。遺物では、陶磁器・瓦・土管・レンガ・金属製品・石製品・ガラス製品・銭貨などが出土しています。

江戸時代では、幕末の絵図とも一致した巣鴨菜園の境堀跡や、藤堂家屋敷の時期(17世紀後半～18世紀前半)の堀跡をはじめ、植栽痕(植木の跡)・溝跡・土坑・ピットなどが見つかりました。遺物では、陶磁器・土器・土製品・瓦・金属製品・銭貨などが出土しています。

この他、中世の陶器片、縄文時代の陥し穴状土坑2基と中期～後期(約4,500～3,500年前)の土器・石器、そして立川ロームIV層下部(約15,000年前)からは、旧石器時代の礫群(調理施設)が2基、それぞれ見つかりました。(大西)

謎の古寺“蓮生寺・真慈悲寺・長隆寺”

—多摩ニュータウンNo.692 遺跡の調査—

蓮生寺は、多摩ニュータウン地域を東西に流れる大栗川の中ほど、別所谷戸の中央にあります。現在は、蓮生寺とその北側に蓮生寺公園が広がり、この一郭だけに往時の静かな佇まいが残っています。

調査はニュータウン開発にともない、昭和61年に現蓮生寺の東側斜面下が対象となりました。調査時の蓮生寺周辺は、江戸時代の「武蔵名勝図会」に描かれるとおり、別所の谷の奥、鬱蒼たる森に時をのみこむようにひっそりと佇んでいました。静寂中、薬師堂への階段を上ったのを思い出します。

調査の結果、斜面を二段に削平して平地をつくり、この平地に大形の掘立柱建物跡を中心に井戸跡や排水溝、墓跡、地下式坑、土坑などが確認されました。これらの時代は、古代末期の12世紀中葉から鎌倉時代の13世紀代を

中心にしていますが、中世全般に及んでいます。調査を行った23年前には、古代末期から中世の遺跡調査事例も数少なく、当地域の歴史にとって貴重な成果であることから、一般に公開すべく現地説明会を開き、350名の見学者に見ていただきました。

遺跡の性格は、仏堂の存在は不明でしたが、出土遺物のあり方や隣接する遺跡に同時期の遺構が広がることから、僧坊や厨房をかねた建物などが丘陵内に散在するような寺院跡と考え、蓮生寺に関連したものと想定しました。

蓮生寺は、鎌倉時代の史書「吾妻鏡」の寿永元年

(1182)の条項に、僧円浄房によって平治の乱(1159年)後に創建されたことが記されています。これまで「吾妻鏡」記載の蓮生寺が現蓮正寺の前身と考えられてきました。調査によってさらにその可能性が高いことがわかりましたが、現蓮生寺の位置に創建期の寺院堂に相当する建物跡があるのか、また寺院の広がりはどのようなものであったかなど謎も深まりました。

調査後、現蓮生寺堂の北側丘陵上周辺で中世瓦が表採されています。このことから薬師堂は、本来この位置にあったことが推察され、延元三年(1338)に「僧教山によって別所薬師堂を建立」とある伝承

を裏付けるものと考えられます。

大栗川の流域には、下流の多摩川との合流点付近(日野市)に真慈悲寺、中流域には蓮生寺、そして上流域に長隆寺という古代末期から中世期の寺院が3つありました。真慈悲寺は、鎌倉幕府の

庇護を受けた当時有力な寺院でしたが、後世の荒廃によりその位置がわからなくなっていました。しかし近年、発掘調査によって日野市百草園周辺であることがわかってきました。一方、上流域の「長隆寺」とは、八王子市中山で発見された、白山神社経塚の経巻に記されてその存在が知られた寺院ですが、現在では所在地も不明です。この三寺がどのように創建され変遷したか、多摩地域の中世を探る上で重要です。これからの地域史研究の進展を切望するところです。一度、古い地図を片手に蓮生寺を歩いて見てはいかがでしょうか。(斉藤)

1 / 964

多摩ニュータウン地域では、964ヶ所もの遺跡が確認されています。その中から調査担当者の記憶に深く残る遺跡について、リレー方式で振り返っていきます。

4 多摩ニュータウン No.692 遺跡



遺跡見学会の様子



「武蔵名勝図会」の薬師堂と蓮生寺

石器の「ツボ」 Vol. 4

ナイフ形石器 (その2)

旧石器時代と縄文時代の石器の観察のツボを紹介する連載の第4回。毎回ひとつずつ石器を紹介していきます。今回も前回に続いて、旧石器時代のナイフ形石器です。

前回説明しましたとおり、ナイフ形石器とは「ナイフの形をした石器」という意味で、ナイフや槍先に使った万能具です。日本列島の旧石器時代で、もっとも長い間広い範囲で、もっとも多く作られた石器です。

ただ、この石器にはさまざまなバリエーションがあります。図1は、東京都埋蔵文化財センターが現在整理作業を行っている府中市武蔵国分寺跡関連遺跡から出土したナイフ形石器です。三角形、四角形、丸形、また先端が尖ったもの、尖っていないものなど、さまざまなバリエーションがあるのです。それは、この中に複数の異なった時期のものがあるからです。

このように時期によってナイフ形石器の形は違いますが、一方で日本列島の各地でも地域によってさまざまなバリエーションがあります。東北・北陸地方のナイフ形石器は薄手で細長い、関東・東海地方のナイフ形石器は小型で幅が広い…、というように違いがあり、この違いを「型式」といいます。東山型ナイフ形石器、杉久保型ナイフ形石器、切出形石器などのように名前を付けて分類します。

このように分類することで、ナイフ形石器の形のバリエーションから、時期区分、旧石器時代人の生活変化、そして交流や文化圏を導くことができます。図2は各々の型式の分布範囲を示しますが、人々や文化の交流圏の一端を指すものと考えられます。

このように考古学者は、ナイフ形石器を観察することで単にその石器の性質を知るだけでなく、生活や文化の復元に役立ててきたわけです。

ある石器が「何万年前のものである」と即

座に答えることができると、みなさんに感心されることがよくあります。それは、石器のバリエーションの分類と時期区分の研究成果を覚えていて、ただそれを話しているに過ぎません。石器のバリエーションが、時間や空間のものさしになっているのです。

ナイフ形石器の「ツボ」:

石器を観察することは、旧石器時代の生活や文化を知る手がかりになります。ナイフ形石器は、その研究に欠かせない石器です。

(伊藤)

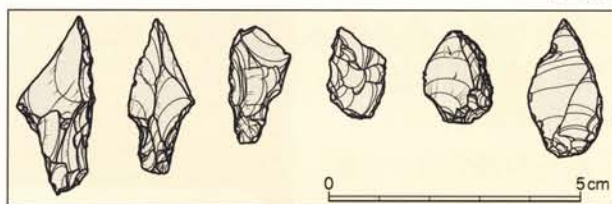


図1 武蔵国分寺跡関連遺跡のナイフ形石器

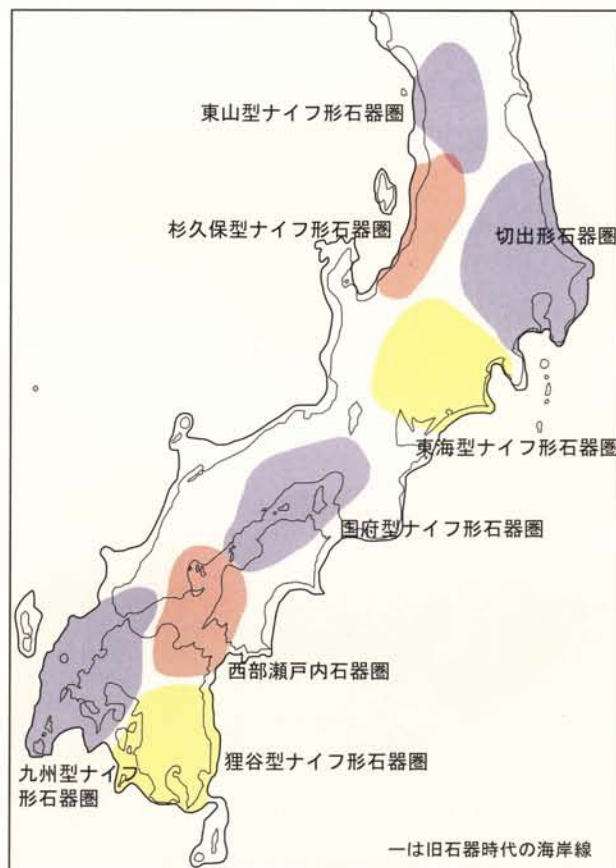


図2 日本列島各地のナイフ形石器の分布圏
(出典：伊藤健 1997「ナイフ形石器文化と地域研究」『東京都埋蔵文化財センター研究論集 17』)

くろがね物語 十八

古代刀の考古学（下）

今回は、日本刀の成立過程について考えてみます。

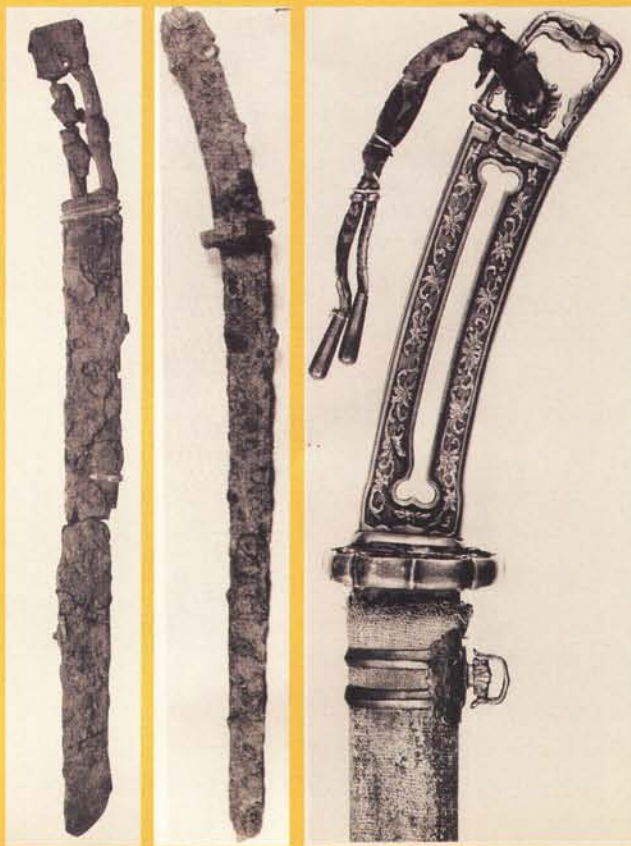
東北地方の墳墓から日本刀の原型と思われる刀が出土していますが、日本刀最大の特徴としては、刀の反りにあって湾刀と呼ばれています。

奈良時代末から平安時代初期にかけて、まず、刀の柄に反りが現れます。しだいに柄反りが顕著となり、やがて、刀身部にも緩やかな反りが生まれ、中央に鑄が見られるようになります。湾刀の誕生です。

現在、湾刀の出現年代に関しては不明です。ただ考古学的には、秋田県岩野山古墳群や湯ノ沢F遺跡出土の太刀などからみて、少なくとも9世紀末～10世紀前半頃には、出現したものと推測されます。

10世紀半ば以降、刀の柄に細長い透かしの入る「毛抜太刀」が宮廷の警護にあたる官人の衛府太刀として採用されます。この毛抜太刀の外装は、奈良時代以来の唐様大刀の様式を踏襲しながらも、前回紹介した藤手刀などの東北地方の鍛冶技術も併用して成立した可能性が指摘されています。

日本刀の成立に、もし辺境の鍛冶技術者が関与したとするならば、当時の倭国（≡中央政府に服属した蝦夷）との関係なども再検討されなければならず、歴史的に見てもきわめて重大な問題を含んでいるのです。（松崎）



1 岩野山1号墳 2 湯ノ沢F遺跡 3 神宮徴古館所蔵毛抜太刀
柄反り刀→湾刀への変化（『日本刀の掬』等より転載）



—火災被災出土品の修復 その4—

熱処理法の実際は、被災した瓦や土器を電気炉で加熱して行います。電気炉は、プログラムに従って時間や温度を自動制御するようにセットされており、安全かつ簡便に作業が行えます。

加熱中はしみ込んだ樹脂が数種類の有機ガスとなって揮発します。表面に付着した樹脂はほとんど拭き取っているのですが、1回の処理で揮発する樹脂の量はわずかですが、人間の鼻はとても敏感ですので、炉の周囲では確かに臭いを感じてしまいます。処理の規模が実験室レベルであることから、大気汚染防止法などの法律や条例に抵触することはありませんが、日々作業に携わる人の健康や周囲の環境に万が一のことがあってはなりません。また、予想もしない何かがしみ込んでいいる可能性も否定できないことから、電気炉に排気ガス処理装置を直結し、より安全に作業が行えるように工夫しました。処理装置



電気炉（右手前）と排気ガス処理装置（左奥）

は、白金を触媒として、捕集した有機ガスを水（蒸気）・二酸化炭素等に熱分解して無害化するもので、これにより作業中に臭いを感じることも、ほとんどありません。

（長佐古）

シリーズ 多摩の縄文 アらかると



とくうへん
土偶編

ドラえもん「のび太の日本誕生」に登場する「ツチダマ」、ポケットモンスターに登場する「ネンドール」、ドラゴンクエストIVに登場する「土偶戦士」、これらはみな歴史の教科書に登場する縄文時代の土製の人形「遮光器土偶」がモデルになっている。

この遮光器土偶、縄文時代の終わりの頃に東北地方を中心に作られた、姿かたちがきわめて特徴的な大型の土偶である。土偶もアニメに登場するようになればメジャー級に昇格といったところか。

土偶はこれまでに全国で一万点以上発掘されてきたが、男性の土偶は一点もない。つまり土偶とは女性を象ったもの。さらに妊娠した状態を示していることから、安産のお守りのような役割を持っていたと思われる。また完全な状態で発見されることは稀で、足や腕など体の一部が欠けた状態で発見されることが多く、多産や豊穡を祈願するための儀式において、土偶の体の一部を切断したのではないかと考えられている。



多摩ニュータウン遺跡からは、縄文時代中期の勝坂式期の土偶43点、加曾利E式期の土偶約150点が出土している。時期によってその形、大きさなどが異なるが、特に加曾利E式期の中でも連弧文と呼ばれる土器を使っていた人々の作った土偶は、先のアニメに登場していた遮光器土偶に比べてぐっと控えめで、その大きさは5cm前後ときわめて小さく、顔の表現なども省略されている(写真)。

稲城市若葉台(旧字坂浜)のNo.9遺跡からは、この土偶が101点も発見されており、その出土数の多さから、東京都の有形指定文化財に指定されている。今回この土偶を展示するにあたって、改めて101点をつぶさに観察したところ、以下の二点の特徴が浮かび上がってきた。

第一は、ポツポツとした胸毛のような表現がある

こと。土偶は女性なのでもちろん胸毛はない。これはおそらく妊娠8ヶ月過ぎに現れる、正中線と呼ばれる妊娠線を点々で表現したものと思われるが、多摩ニュータウン遺跡の他の遺跡から出土した土偶では見られないNo.9遺跡の最大の特徴である。仮にこれを「坂浜型土偶」と呼ぶことにしよう。この坂浜型土偶と非常によく似た胸毛のある土偶が、町田市の鶴川遺跡と川崎市の黒川遺跡などからも見ついている。No.9遺跡から配られたものなのだろうか。

第二の特徴は、土偶の作り方。土偶は完全な形で発見されることは少なく、破損しているものが多い。その破損面は滑らかな面(接合面)で割れていることから、板チョコにつけられている溝のように割りやすい細工がなされていたのではないかと、その技法をチョコレート分割法、あるいは分割塊製作法として、土偶製作にあたって割ることを前提に作られていたとされている。この手法はやや大きめの土偶に見られるものと考えられていたが、実は小形の坂浜型土偶にもこの手法が用いられていることが判明した。5cmほどの小さなものなので、一塊の粘土をひねり出せば一体分の土偶が簡単に出来るにもかかわらず、わざわざ頭・胴体・両手・両足のパーツをそれぞれ別々に作ってそれをつなぎ合わせている。これにはどのような意味があるのだろうか。

乳幼児の死亡率が極めて高く、平均寿命は20歳にも満たない。15歳からの平均余命でも15年程度と推定されている縄文人。生と死に対する思いは現代人以上であったとも思われるし、そこに込められた思いも強いものであったに違いない。アニメに登場した土偶たちにも、きっとその心は伝わっていると信じているが、今改めて新しい生命に対して幸あれと願わずにはいられない。

追伸 No.471遺跡の土偶(タイトルバック)が、イギリス大英博物館で9月から開催される「DOGU」展に出展のため、先日出国。来年2月には東京国立博物館で帰国展が開催される予定です。(小葉)

「たまのよこやま」の由来 万葉集卷二十之四四一七の防人となった夫の旅立ちに備えて、山野で馬に草を食べさせていたところ、馬は逃げてしまった。やむなく徒歩で多摩丘陵を越えることになってしまった夫を見送る妻の嘆きを詠った

「赤駒を山野に放し 捕りかにて 多摩の横山 徒歩ゆか遣らむ」(宇治部黒女) を由来としています。



たまのよこやま 78

2009年9月30日発行

東京都埋蔵文化財センター 〒206-0033 多摩市落合1-14-2 TEL 042-373-5296 <http://www.tef.or.jp/maibun/>